

『看護師職能委員 I 交流会』を開催して

日 時：令和 6 年 8 月 31 日（土） 会場：岩手看護研修センター 3 階研修ホール

参加者：18 名（各支部・本部より）

テーマ：「看護提供の現状から考える看護業務の効率化と多職種連携」

今年度の交流会は、3 年ぶりに集合開催としグループワークで活発に意見を交わし最後に全体共有を行いました。

はじめに委員長から「看護師職能委員会 I 病院領域の 2023 年度活動報告と 2024 年度活動方針」について説明を行いました。看護協会における看護師職能 I の活動として、1) 病院看護職の処遇改善に向けた取り組みに関する状況把握、2) 病院看護職における多様で柔軟な働き方に関する提案に沿った好事例の収集、3) 病院におけるタスク・シフト/シェア推進に伴う安全管理上の課題に関する情報収集・意見集約、が必要であることが伝えられました。これらを踏まえて、3つの課題に沿ってグループワークを行い全体共有しました。

1 「現場で困っていること、抱えている課題について」

離職者が多いことや職員の高齢化、夜勤ができる看護師の減少、連日勤務が続くことへの疲弊などマンパワー不足に関する課題が出されました。それに伴い管理者も苦慮し職員との板挟みになっているといった意見も聞かれました。そこで、日本看護協会が 2021 年から提案している「就業継続が可能な看護職の働き方の提案」の資料を共有し、各職場での働き方と照らし合わせて考えることができました。



（参考資料「就業継続が可能な看護職の働き方の提案」日本看護協会

https://www.nurse.or.jp/nursing/shuroanzen/hatarakikata/pdf/newspaper_ex202103.pdf)

2 「看護業務の効率化のためにどのようなになってほしいか、またはしていきたいか」

ライフスタイルに合わせた豊富な勤務体制、看護補助者の有効活用、多くの部署で臨機応変に働くことが出来る看護師の育成、看護業務と電子カルテ操作に精通する電子カルテサポーターの配置、勤務時間内の委員会活動、使用できなかった年休の換金など様々な意見が挙げられました。

3 「タスク・シフト/シェアの推進に伴う多職種連携の現状と課題」

多職種カンファレンスを活用し全職種が情報共有出来ている、日常生活援助をリハビリが行っている、看護補助者確保のために業務内容を選択して就業しやすい環境を作っている、患者の送迎を技術部門が行っている、ユニホームに「ノー残業マーク」を付けて他職種にも分かるようにしているといった実際の取り組みを聞くことが出来ました。一方、他職種の協力が得られず何でも看護師任せの現状、看護補助者への具体的な業務移行ができていないなど、まだまだ検討することも多くあることが報告されました。



（参考資料「看護の専門性の発揮に資するタスク・シフト/シェアに関するガイドライン及び活用ガイド」

https://www.nurse.or.jp/nursing/assets/shift_n_share/guideline/tns_guideline.pdf)

看護業務の効率化と多職種連携は、すべての病院が重要な課題として取り組んでいることが分かりました。全体共有ではそれぞれの病院で工夫している情報を聞くことが出来て、参考になる意見がありました。参加した職能委員の方々から「同じ悩みを語り合えて良かった」「自分の職場でも出来そうな方法を聞くことができた」など前向きな意見が聞かれました。それぞれの職場で働き方改革に役立つ有意義な交流会になりました。

(看護師職能委員 I 菅原由美子)

